

# 早稲田大学記念会堂 1

1956年(昭和31年)



早稲田大学記念会堂は、早稲田大学グラウンドに1957年(昭和32年)、早稲田大学の創立75周年を記念して建設された体育館です。

1956年(昭和31年)の写真には、まだグラウンドだった事が確認できます。



# 早稲田大学記念会堂 2

1965年(昭和40年)



早稲田大学記念会堂は、同大学の戸山キャンパスにあり、1964年(昭和39年)のオリンピックでは、フェンシングの会場として利用されました。

2019年(令和元年)

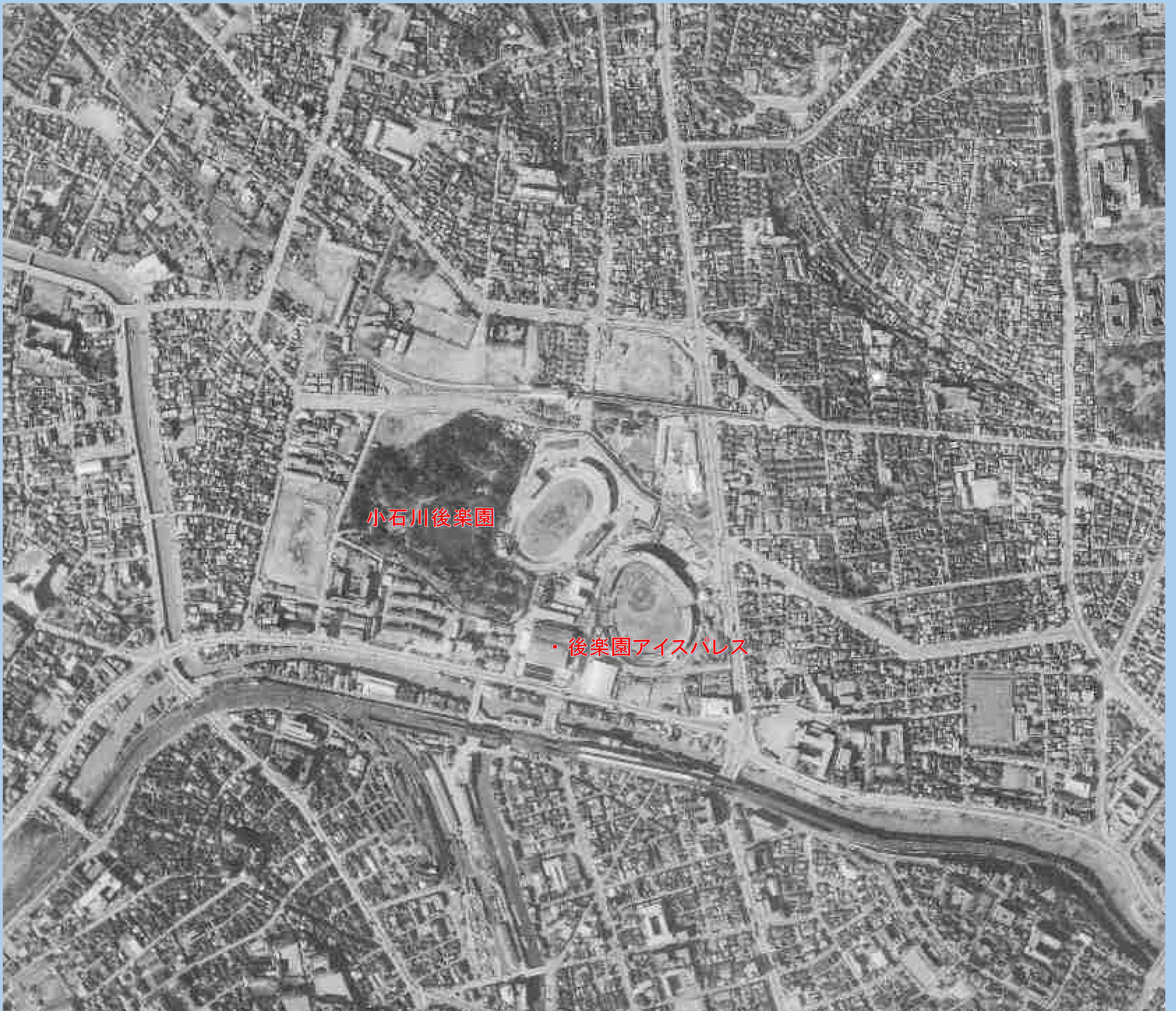


早稲田大学記念会堂は、2019年(平成31年)3月から早稲田アリーナとして生まれ変わりました。



# 後樂園アイスパレス1

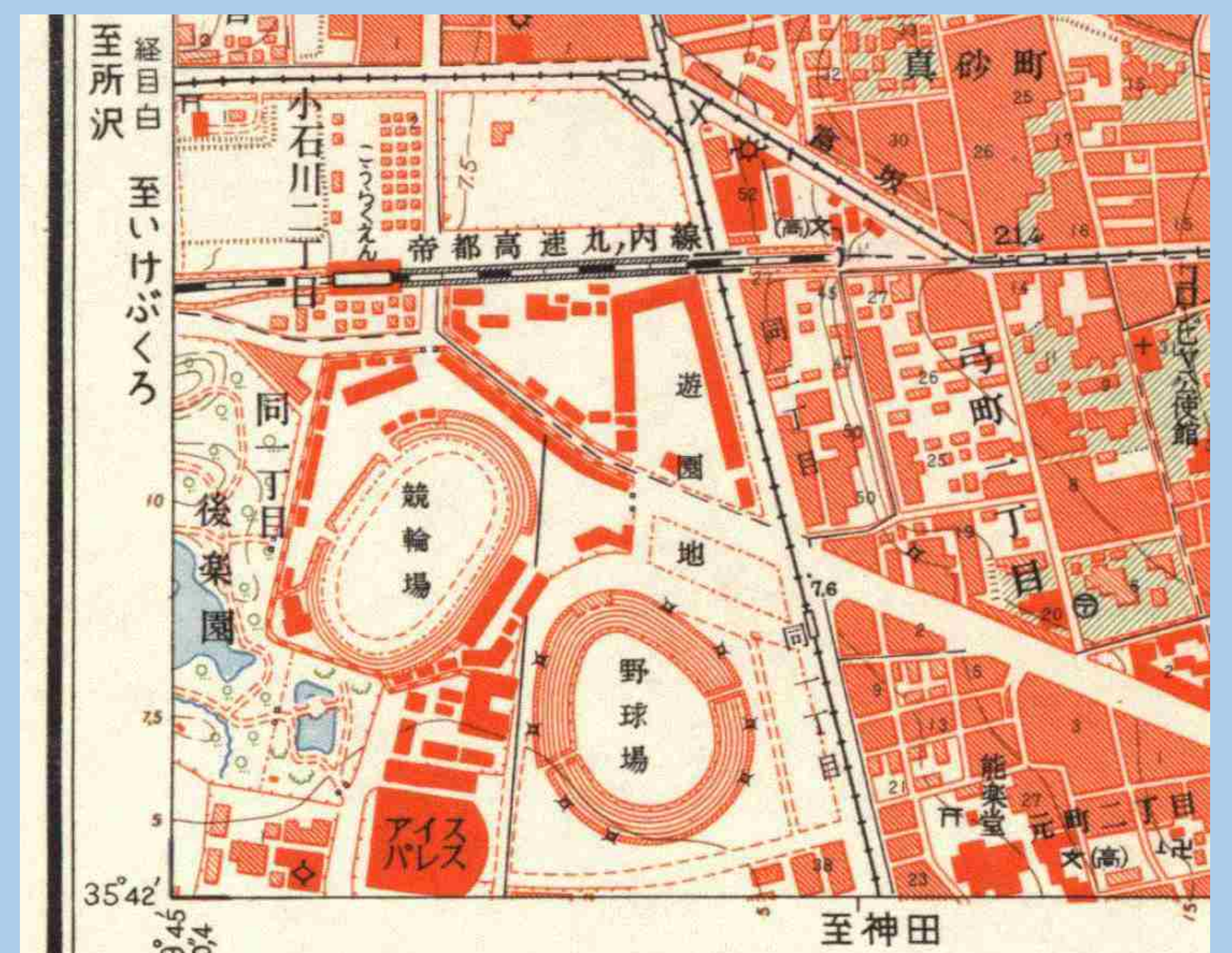
1956年(昭和31年)



1951年(昭和26年)、文京区後楽に建設された後樂園アイスパレス(初代)は、普段はアイススケート場として使用されていましたが、1964年(昭和39年)のオリンピックでは、ボクシングの会場として利用されました。

その後、1971年(昭和46年)9月に閉鎖、解体されました。

ちなみに、2代目のリンクは初代リンクの跡地に建設されたビル内において、1973年(昭和48年)4月に開業し、1993年(平成5年)4月に閉鎖されました。

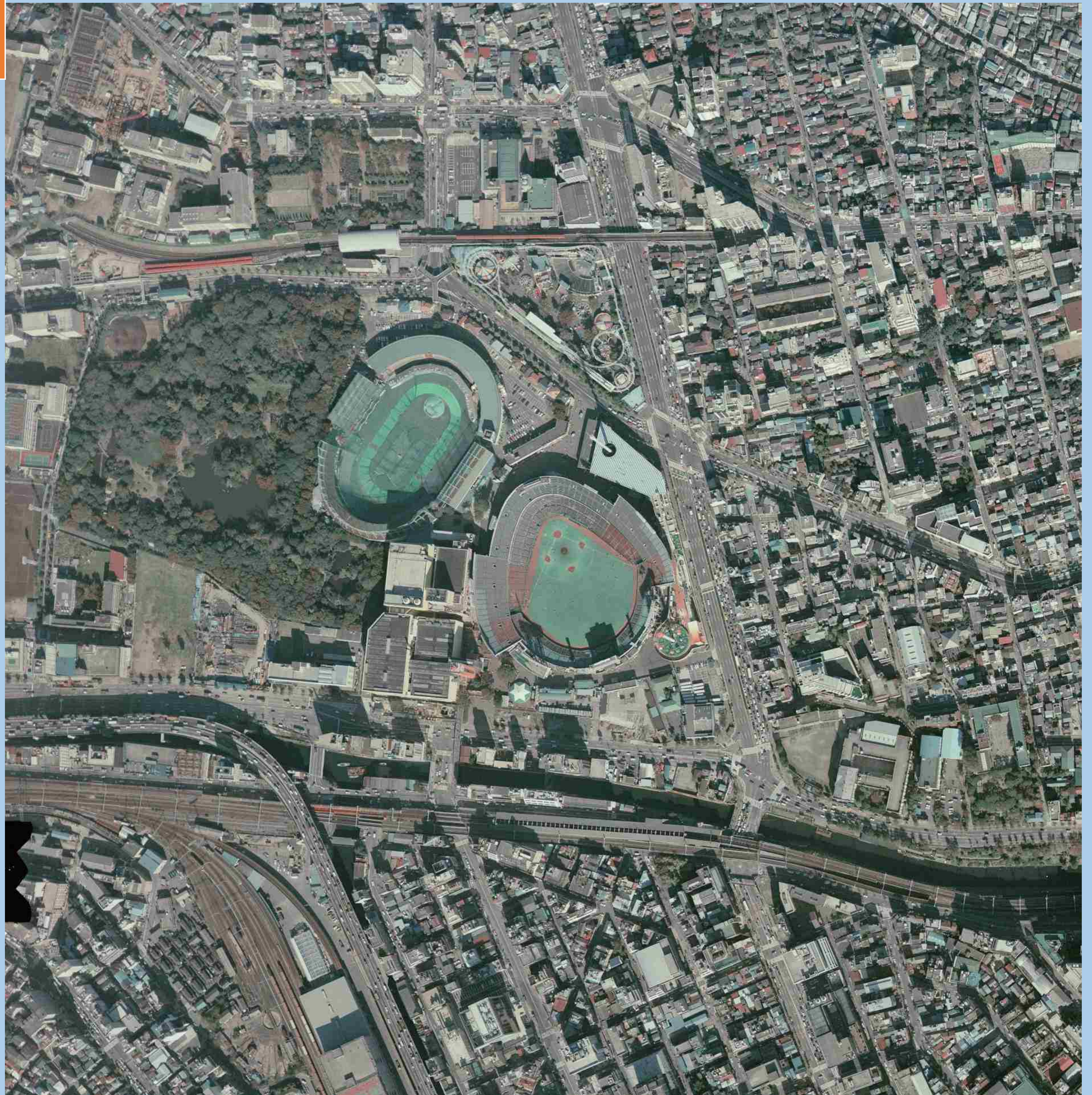


1956年(昭和31年)



# 後樂園アイスパレス2

1979年(昭和54年)



野球場は後樂園球場  
1937年(昭和12年)  
~1987年(昭和62年)

2019年(令和元年)

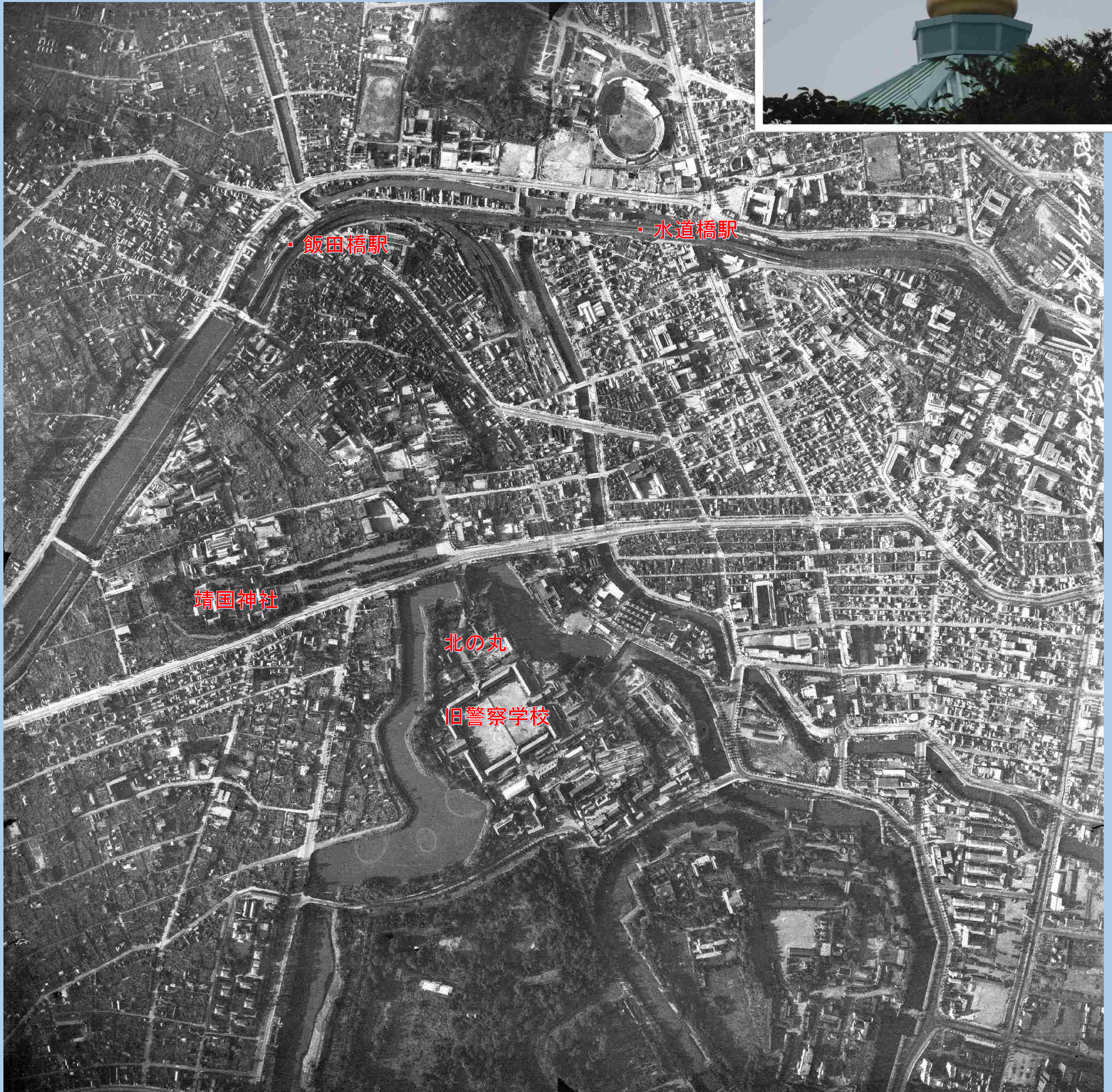


1988年(昭和63年)  
から東京ドームに変わりました。



# 日本武道館 1

1947年(昭和22年)



日本武道館は千代田区北の丸に位置し、1964年(昭和39年)9月15日に落成しました。

1964年の東京オリンピックでは、1961年(昭和36年)にオリンピックの正式競技に決定した柔道の会場として使用されました。

柔道や剣道など日本の武道の稽古場・競技場として使用されるほか、コンサート、入学式・卒業式など幅広い用途で使用されています。



# 日本武道館 2



1975年(昭和50年)



2019年(令和元年)





# 馬事公苑 1

1948年(昭和23年)



馬事公苑は世田谷区上用賀に位置し、1940年(昭和15年)の東京オリンピックに向けて日本の馬術選手を育成するために開設されました。ただし、このオリンピックは中止になりました。

その後、1964年(昭和39年)の東京オリンピックにおいて、馬場馬術競技の会場として使用されました。(障害馬術は国立霞ヶ丘陸上競技場、総合馬術は長野県軽井沢町)



# 馬事公苑 2

1975年(昭和50年)

今年のオリンピックでは、馬術(障害馬術・馬場馬術・総合馬術(クロスカントリーを除く))の会場として使用される予定です。



解説:各アリーナの名称は「馬事公苑 施設利用案内図 2011.2.1」を参照

2019年(令和元年)





# 渋谷公会堂

1957年(昭和32年)



渋谷公会堂の建設前は、連合国軍占領下の日本にて設置された米軍居住施設「ワシントンハイツ」がありました。

1966年(昭和41年)



渋谷公会堂は、「ワシントンハイツ」の跡地に、国立代々木競技場・NHK放送センター・渋谷区役所などとともに建設され、1964年(昭和39年)に竣工しました。

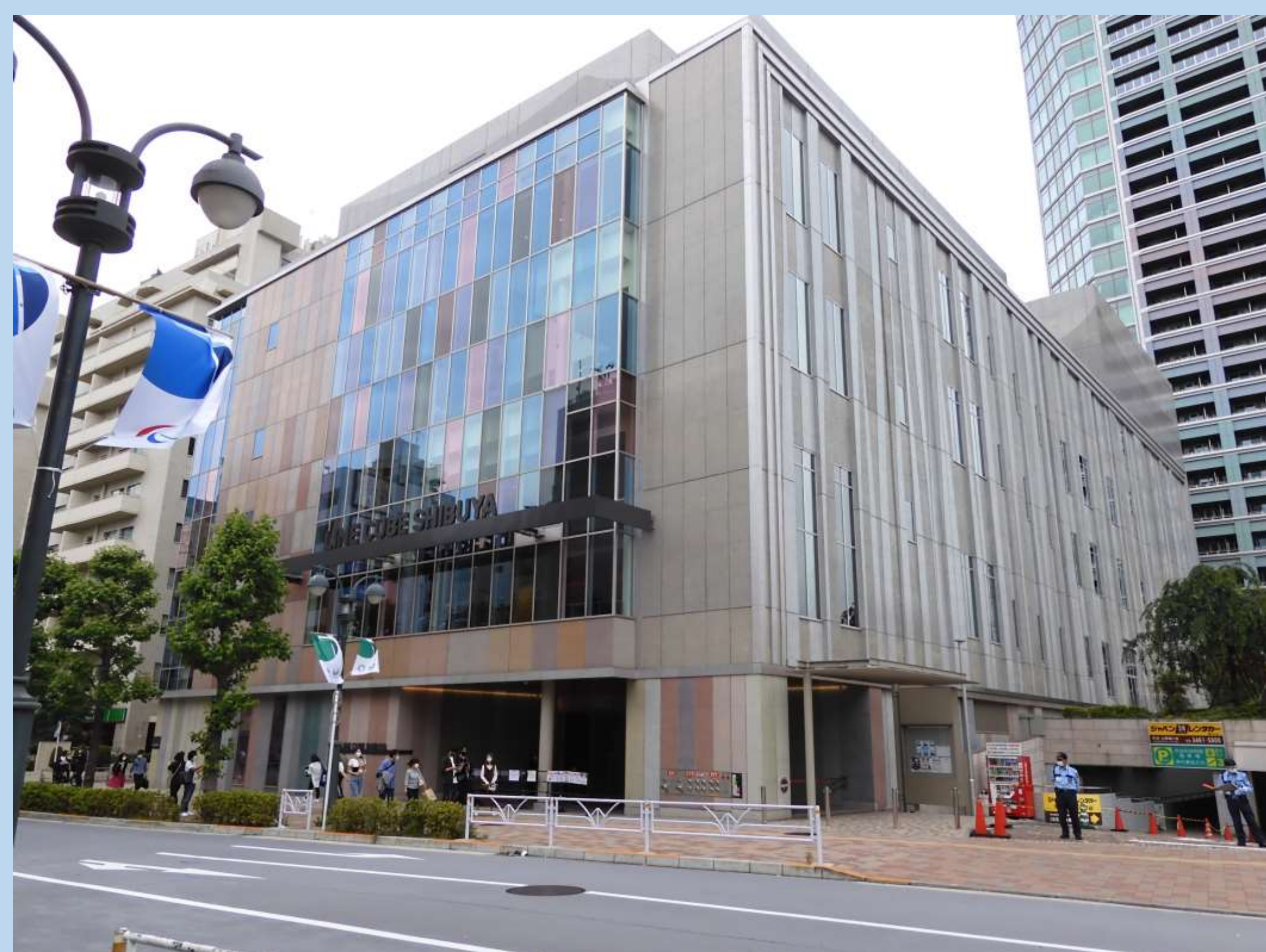
東京オリンピックでは、ウエイトリフティング競技会場として使用されました。2015年(平成27年)に閉館・解体され、建替えられることになりました。

2019年(令和元年)



新公会堂は2019年(令和元年)に竣工しました。

通称名はLINE CUBE SHIBUYA (ラインキューブシブヤ) です。





# 選手村 1

1957年(昭和32年)



選手村の建設前は、連合国軍占領下の日本にて設置された米軍居住施設「ワシントンハイツ」がありました。



# 選手村2

1966年(昭和41年)



東京オリンピックでは「ワシントンハイツ」跡地に選手村が設けられました。

2019年(令和元年)



東京オリンピック終了後は公園として整備され、1967年(昭和42年)に代々木公園として開園しました。

現在も多くの市民の憩いの場となっています。



現在も宿舎の一部が保存・展示されています。